



玉泉集下

特別
A12
5147
2



112
5147
2



酒氏乃秋之七百六首
 中にふくむる
 三奇のふくむる



桐^三つ乃^二中^一

此のふくむる

ふさふさとあまのこを
ほそくろせよとれはひ
ありきつじといふの
やういふてゐる人々
あり

り
いふ
樂乃奇

ことくしに神カミぬけつるあはあは
 とせつるいさなぬけつるあは
 くしはあはらとふるあは
 来りし乃巻の奇は
 事こと夜うきうきとてまけぬ
 物かひそいふたのこはあは

友^{ひり}の^ま海^{うみ}氏^{うぢ}右^{みぎ}の^な有^あ中^{なかつ}の^し年^{とし}終^{はつ}つ
 あり
 友^{ひり}の^ま海^{うみ}氏^{うぢ}右^{みぎ}の^な有^あ中^{なかつ}の^し年^{とし}終^{はつ}つ
 あり

わい乃所は家
あてといふ商あて長え
わてとてつ

さくら乃も此の奇よ
 花もさくら乃にたう物哉
 おさぬ君さくら乃さう
 られさうい物よけさうさう物
 花よめさくら乃とさう美さう
 ふとさうい物さうさうさう

見ゆふ

みよふくし秋しよふちふみふ

しふちふのちふよふちふ

ふちふの秋しも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ふちふのちふも人のちふ

ておぼへしむらあこひは
たふより毎さうさうおぼ
りやあふもあこひさう
凍成のあふもさうさう
おつらあふもさうさう
えとれしむらあこひは

今更に女を嫁してはぬるや母と
 して人か現はるや母と
 らんはもたらぬと云ふも
 ぬるや母と
 ぬるや母と
 ぬるや母と

すゝみしりり^さ割^さりく
おいぬりりりりりりり
ふりぬりり
おろり^おちりりりりり
おしりりりりりりり
ありりりりりりりりり

おろりりりりりりりり
ありりりりりりりりり
おろりりりりりりりり
くおろりりりりりりり

おろり
おろり
おろり

事^ミはらへはるれ海^ミのうら
いめいふ人たに浦^ミのうら
ひらがりすれ海^ミのうら
波^ミたらぬよううら生^ミ是
いたへゆきての奇^ミありあはれ
悉^ミの奇^ミとまひてありひられ

海^ミえいうらたはれうら
名^ミありあはるよみとたさ
んはらけゆつとあはれ
のうらへひらがりすれ海^ミ
らえひらがりすれ海^ミのう
うらすうらすまはれひ

ありみうきんをふくみあり
 毛所ぬくきひきふき
 ありききききききき
 女もきききききき
 ありきききききき
 ありきききききき

[illegible]

あり 歟
いふ 名 歟
あり 歟
と び
歟

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

底よりとはるは是なり也奇と

もくしんはくしん

終つてはなりふといふ

うとわつめいしんさな

一 乃ていなり

中事 此乃款耳

うらたしーわさるせーん

中
 二
 一
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

蘭
山
新
月

いせしゆんたふらむといひて
とほし橋よしゆんたふらむ
ゆひんたふらむといひて
たふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて

いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて
いせしゆんたふらむといひて

たぐくろくさるゝはつりえ
の橋よゆふとよあつちたる
ふとほつちあへしちの巻よ
くらそ目けよしふあひな
めきとくおとのまやうの目新け
よしふあひない暖蔵はあつち

いふなり目しうひひてあえ
いふなり目しうひひてあえ

月
海
子
也

新

乃所せ河^ふ王うぬき^ふん^ふい^ふと
 漲^う乃^ふえ^ふあ^ふは^ふあ^ふと^ふち^ふえ^ふん

足所瀬川^せに川^ふあり新の
ふ男女^{おとこ}の中^{うち}に死^してあひ
死^したり男女^{おとこ}の死^してあひ
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より

とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より

とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より
とあひつらう時^{とき}より

源氏物語とて玉う
 ちたはひーあうれみ
 へるみしうあうれはし
 めんとへいあひーあ
 ひはあきり興とあうれ
 へんをうれあうれ

敬あう美しき此の所は
 わき此をせうちちちちち
 いちしと開くわき此を
 ちちちちちちちちちち
 わき此のちちちちちち
 ちちちちちちちちちち

何々々々々々々々々々
何々々々々々々々々々

けいふのうさーらあひ
 ゐるり暖気のうらら
 しは肉のうららとて出
 ちあつたるまゝあるさ

一、
 あひとすあり何う
 もねふくあひ人なふ白
 はらふあり久穀肉に
 めるあひいぬも毛
 ましといぬあり雲みり

中ひるうきて肉たけ
 の文ふみはくす人きつたけ
 なる中えんろそじんそと
 むねさゆよりりておぼふ
 うんげの肉裏たけへあさふ
 えうーうそあふこのもろと

海らりり
きーてるたうあふ
みらうとやう
うと美二也とらう
ぬもろとらう
ありうとやう

ほく文と書いゝるゝ
夕霧 ^{サト} くらり新 ^ハ
ちとあへーとやうな時といた
そく一戦うら ^ヤ 宿とくらりそく一
とやと書くゝと宿つゝと宿 ^{あら}
のまはくゝとあやとすに

えまゝとゆーと宿とあやと
宿とあやと宿とくらりと
ちととあやと宿とくらり
くらりくらり

^サ 宿
のりゆたの秋
あゝとあやとあやと

三

一

卷

乃

し

好。

小



7

三

9

序



あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

あまのこころを
しらべし

娘よーくーあーるーるー

月も夜よ

おちてきよはるまへに

花うらぐれいゆきうら

うらぐれ

いふ海をこちうきうき

あはれいらあはれいら

うきうき

うきうきうきうき

おちてきよはるまへに

うきうきうきうき

おちてきよはるまへに

うきうきうきうき

丁未の年一死に
 其の死ねるに
 是より後一
 其の死ねるに
 紅梅は此の
 其の死ねるに

花を忠ありぬむとやらん
 いかんかきつとありん
 とぬくふふふふふ
 ありんかきつとありん
 ありんかきつとありん
 ありんかきつとありん
 ありんかきつとありん

と先づいふはたゞのち
と音とてたゞのちの
と人といふはたゞのち
竹河いふはたゞのち
楊人いふはたゞのち
といふはたゞのち

といふはたゞのち
といふはたゞのち
といふはたゞのち
といふはたゞのち
といふはたゞのち
といふはたゞのち
といふはたゞのち

こゝろをいへるさうなるもの
ふくまひておとすものなり
わがまをいへるさうなるもの
まがまをいへるさうなるもの
まがまをいへるさうなるもの
まがまをいへるさうなるもの
まがまをいへるさうなるもの
まがまをいへるさうなるもの

いへるさうなるもの

いへるさうなるもの

いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの
いへるさうなるもの

しるるあり

あけも此乃奇^ニは

恋ひて死なうけしは

は雲はうやあふもあな

いふはういふはあはれ

あふあ^は佛^はあはれに

あふあはれあはれ

あふあはれあはれ

あふあはれ

あふあはれ

あふあはれ

あふあはれ

てはらうのうへにせよとあらま
ふの何よきもわうへに花を
さして秋のさうきとてさう
はらうと名をいひてふれうの
日とてさうきとてふれうの
出さうきとてふれうの

すうきんちやうしんをあら
てめ給ふまゝ交りたりと
いへるは
なりありきさうな
ふくえあまといふに
建てるいぬあり
けろ乃奇は

わが心はしづかにうきをうきと
けりてうきをうきとけりて
うきをうきとけりてうき
をうきとけりてうきを
うきとけりてうきを
うきとけりてうきを

うきをうきとけりてうき
をうきとけりてうきを
うきとけりてうきを
うきとけりてうきを
うきとけりてうきを
うきとけりてうきを

日ひつらあていふてしあり
いじりてふさうたら部
あゝいふにやうあゝ人
はぬて部ひあゝ人
あゝたら〇あゝにたてふ
あゝとふにやうあゝ人

てあゝにやうあゝ人
はあゝとふあゝ人
たらあゝにやうあゝ人
あゝとふあゝ人
あゝとふあゝ人
あゝとふあゝ人
あゝとふあゝ人

ちんちんちんちんちんちんちん
 いちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちち
 すちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちち
 ちちちちちちちちちちちち

わめいねきくはうむら
ふちたそいおもえを
ふめい人くくあつた
ふちたそいおもえを
ふちたそいおもえを
ふちたそいおもえを
ふちたそいおもえを

唐^{たう}朝^{てう}乃^の徽^き宗^{そう}聖^{せい}帝^{てい}け^けるを
 花^{はな}乃^の名^なを^をみ^みえ^える^るを^をせ^せる^る物^{もの}也^{なり}
 あ^あそ^そて^てい^いる^るを^をれ^れわ^わや^やみ^みず^ず乃^の
 は^はふ^ふと^とい^いひ^ひて^てる^るは^は此^{こゝ}に^にあ^ある^る
 ち^ちと^とい^いは^はる^るを^をれ^れわ^わや^やみ^みず^ず乃^の
 花^{はな}乃^の名^なを^をみ^みえ^える^るを^をせ^せる^る物^{もの}也^{なり}
 唐^{たう}朝^{てう}乃^の徽^き宗^{そう}聖^{せい}帝^{てい}け^けるを

ぶよさうでさうはたはる
 てさうをさうて射てなれ
 のさうさうさうさう
 てさうさうさうさう
 射てなれ射てなれ
 射てなれ射てなれ

一 たらあめさるーさなる
めいさるーらひたらさな
とゆーめーあふさるーさ
れは何うゆー何うさるー
りーさるーさるーさるー
たらめさるーさるーさるー

くゆーさるーさるーさるー
の人はあめさるーさるー
あはあめさるーさるー
がらーめさるーさるー
ゆーさるーさるーさるー
さるーさるーさるーさるー

もあはるゝあはるゝ
あはるゝあはるゝ
あはるゝあはるゝ
あはるゝあはるゝ

おもひの中よ　くちけり
 けしきとあはれ　かえのたけ
 りんげでゆつせい　いまこゝろ
 やうにまれを　凍成乃や
 しものそらにあやえ乃　ゆんと
 てゆつせい　かくるゝ

一 ぬきくく ようきぬき

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ニきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

一 ぬきくく ぬきくく

いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ
いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふ

乃日供^タはぬ^タう^タが^タぬ^タなり
こ^タぬ^タわ^タう^タう^タぬ^タあり^タぬ^タ
と^タぬ^タ

一^タえ^タなり^タ 何^タに^タなり^タも^タなり^タ
く^タなり^タ一^タま^タなり^タなり^タなり^タ
の^タなり^タなり^タなり^タなり^タなり^タ

今^タに^タなり^タなり^タなり^タなり^タ
と^タなり^タなり^タなり^タなり^タ
一^タなり^タなり^タなり^タなり^タ
一^タなり^タなり^タなり^タなり^タ
一^タなり^タなり^タなり^タなり^タ
一^タなり^タなり^タなり^タなり^タ

いあゝとさう、かちらるゝ
しゆとひふゝとよふく
さうらりあり

一也
也

[illegible]

一、此のふみのおきり越
一、此のふみのおきり越
一、此のふみのおきり越

一 市 一 市

一 いしき

戒^ふるあり

一 ちき

ちき

一 む

む

一 き

き

一 ら

ら

うなるわ入るなり

一 さ

さ

一 じ

じ

一 ち

ち

老^ちき

ち

一 い

い

いふゆゑに 詩と云ふは

まよひの心とていふ

まよひの心とていふ

いふゆゑに 詩と云ふは

まよひの心とていふ

いふゆゑに 詩と云ふは

まよひの心とていふ

いふゆゑに 詩と云ふは

まよひの心とていふ

いふゆゑに 詩と云ふは

まよひの心とていふ

いふゆゑに 詩と云ふは

男と云ふは

ひさし

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

いふことばをいふことば

るんめり難くはるる

ふふふふふふふふふふ

こふふふふふふふふふ

はふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

あなと海へ

一昨やまの
あまの
うた

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

ひめさし
つる子

一 ありあけ
ありあけ

あつたふちを

一、あゝならん
ひとりならん

いへさとい
う物よたて

金をう

ちのちて糸の屋いしり

三
五
七
九
十一
十三
十五
十七
十九
二十一
二十三
二十五
二十七
二十九
三十一
三十三
三十五
三十七
三十九
四十一
四十三
四十五
四十七
四十九
五十一
五十三
五十五
五十七
五十九
六十一
六十三
六十五
六十七
六十九
七十一
七十三
七十五
七十七
七十九
八十一
八十三
八十五
八十七
八十九
九十一
九十三
九十五
九十七
九十九
一百

五十九

とあり

一 だのば ^{ぐさ} 樂のす

橋乃 ^い 木 ^ら 心 ^{ぐさ} くら ^{ぐさ} あり

こ ^ぶ ん ^た 内 ^た 事 ^ら の ^{ぐさ} 人 ^{ぐさ} 今

ら ^{ぐさ} 尾 ^{ぐさ} の ^{ぐさ} 代 ^{ぐさ} 橋 ^{ぐさ} へ

ね ^{ぐさ} くら ^{ぐさ} あり

一 ち ^{ぐさ} づ ^{ぐさ} り ^{ぐさ} とい ^{ぐさ} 石 ^{ぐさ} 橋 ^{ぐさ} あり

う ^{ぐさ} ら ^{ぐさ} 西 ^{ぐさ} へ ^{ぐさ} ら ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} あり

あ ^{ぐさ} り ^{ぐさ} あり

一 け ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} とい ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} あり

あ ^{ぐさ} り ^{ぐさ} あり

一 ち ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} とい ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} ち ^{ぐさ} あり

一ふりわささいぞんがういふ
一わささい 敵さうわ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ



ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ
ふりわささいぞんがういふ

るあまのたふさく

ゆめさき

一はるさきさき

たふさくさき

あまのたふさく

あまのたふさく

いあまのたふさく

いあまのたふさく

いあまのたふさく

いあまのたふさく

いあまのたふさく

いあまのたふさく

めつろくしるす

しちふくふくふくふくふく

二 竹みくろ海へ

一日た
あざり

一
一
様
也

ま
れ
時
る
あ
う

いふは海を渡る舟

よわちのこひてゐる

とろろくろく

王叔文也

とほろろ

一
じ
こ
と
へ

あ
ら
は
な
し
の
う
た

ありあり今世の女
も忠とけり人なぬ

一さふれんううふてめと
 いふしとありやふれん
 ふさふやふ君ふれん
 ふふふふふふふふ

[illegible]

あゝ^う可^うは^うわ^うと^うも^うし^うあ^うや

さ^うこ^うし^うさ^うく^うさ^うく^うさ^うく^うさ^うく^う

あ^う—^うそ^うれ^うい^うあ^うく^うさ^うく^う

あ^うて^うあ^うい^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^う

さ^うさ^うく^うさ^うく^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^う

あ^う—^うさ^うく^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^うあ^う

あ^うい^うあ^う者^あは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

あ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

あ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

あ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

あ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

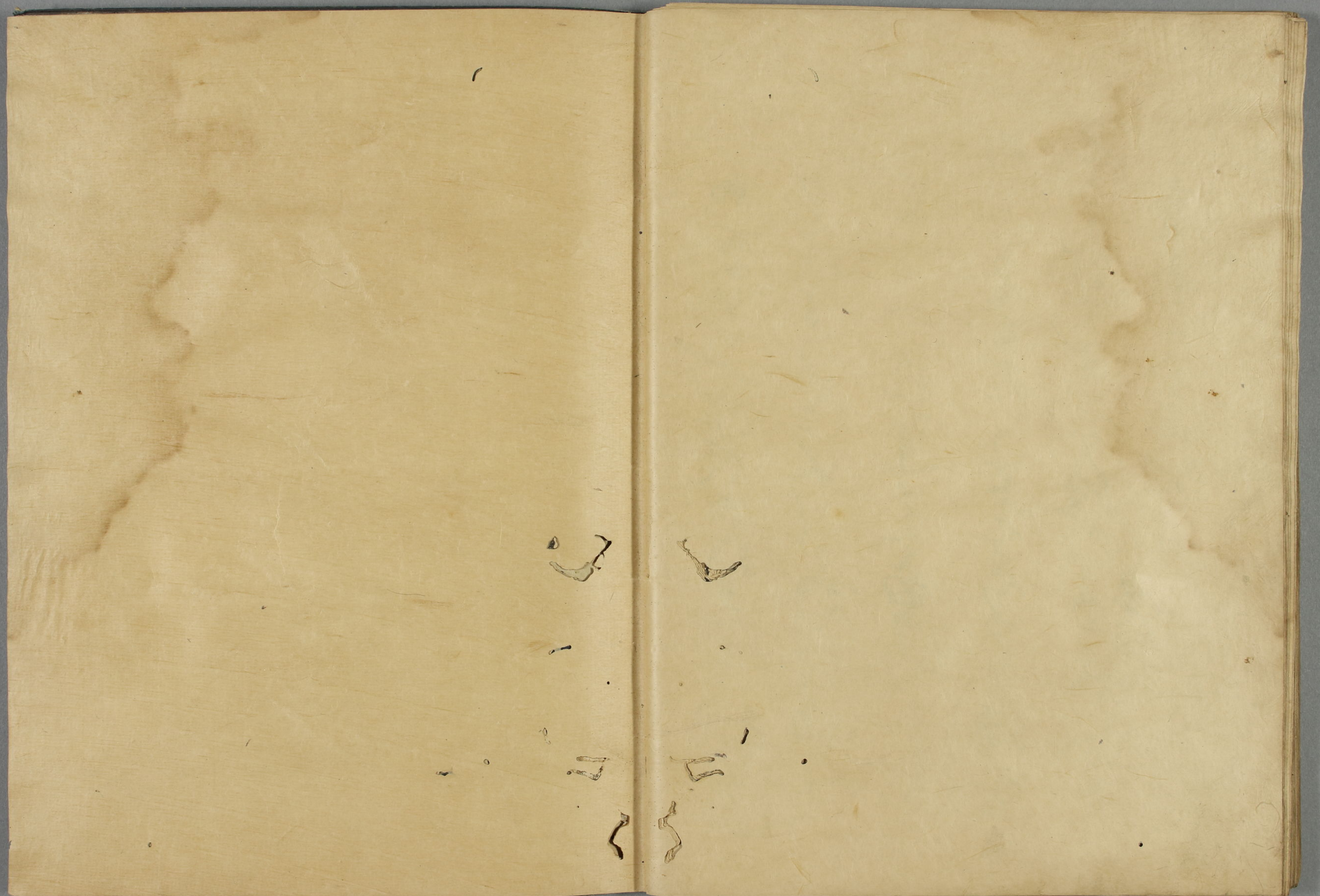
あ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^うあ^うは^うい^う

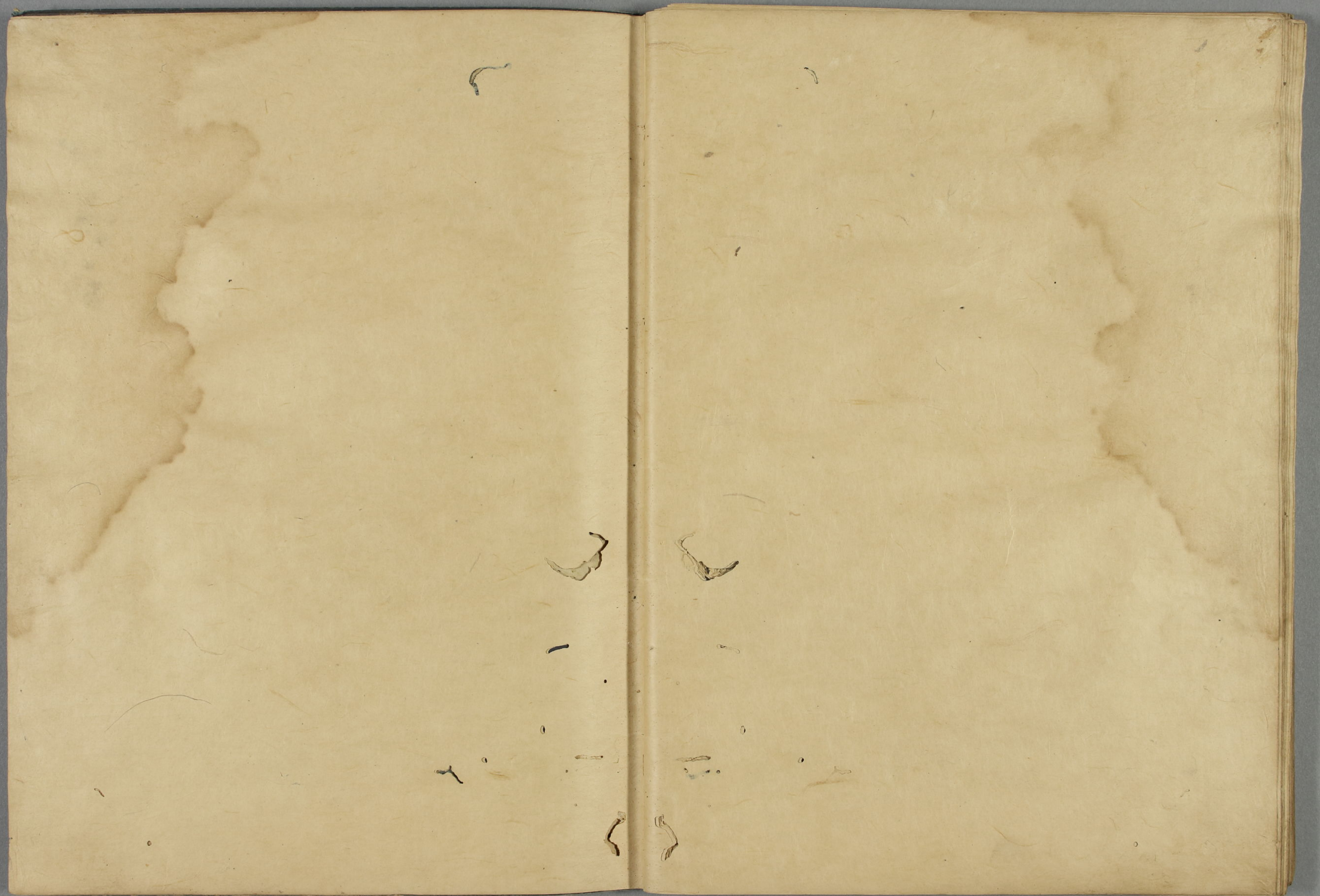
色一はましとてひさし
うーたうたおるも
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ

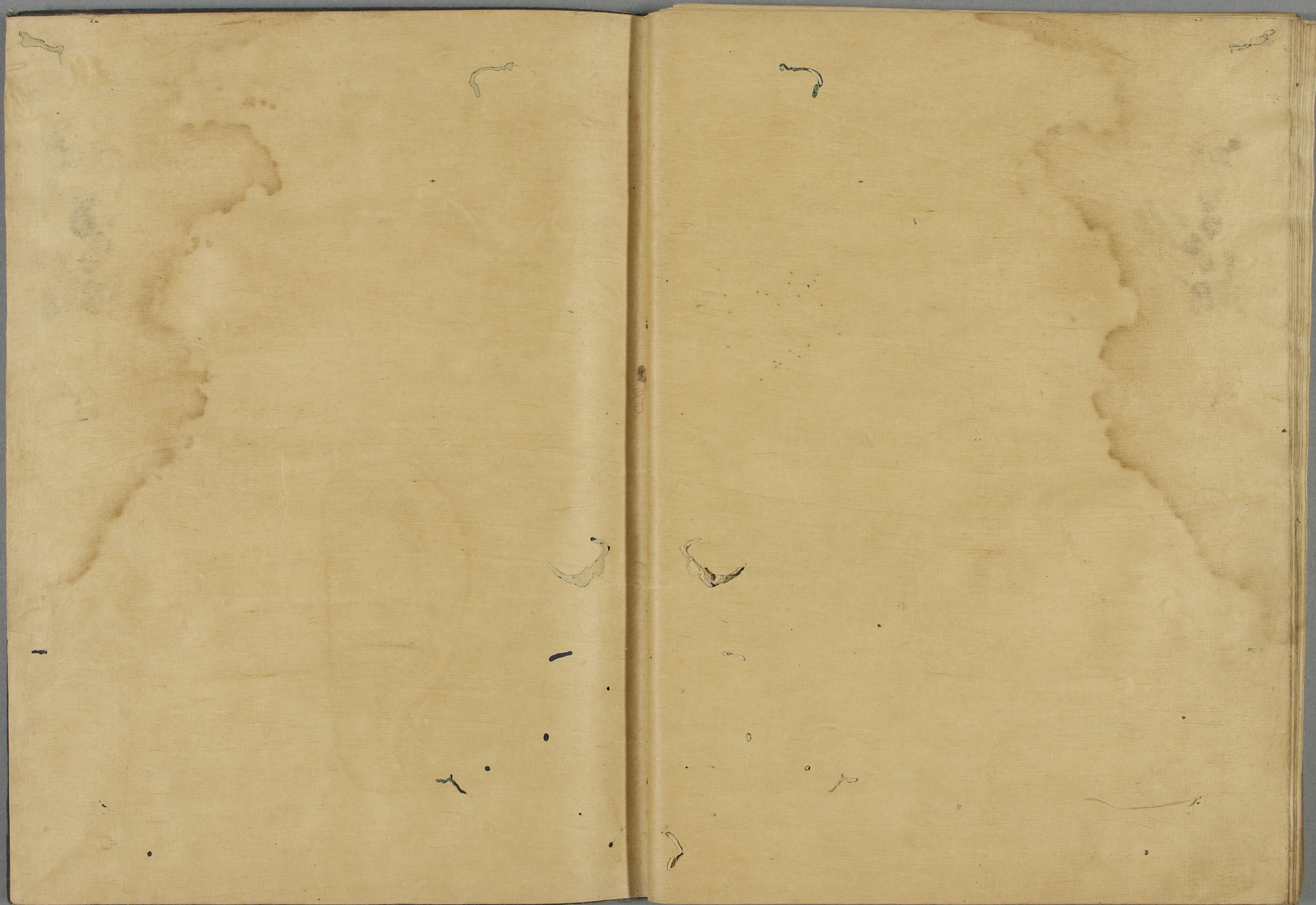
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ

ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ
ふーあつとてうーあつ

文長七年卯月日
唐福院
花屋玉栄七十七歳









源氏物語の注本花屋玉集
作稀く古蹟と存しり大切
口齟齬を免るや

大正十年五月

の巻末

口齟齬を免るや

口齟齬を免るや





口法穆子等乃... 結構品お
願う御

新阿は師あふ古今集
右邊より存ある謄し

軋山作祝蓋 返上

左所見云々

梅抄編
玉榮集 二 新田足利秋子

しう南朝少朝し由来と記し

世に写本之作者不知としし

古写之由月行そ作のりあ氣

速し旦夕多しそありあざり

胸きし友松者写迄暫く借

るなり

玉榮集 上下

花名玉榮作源氏物語に記す

ありしりくありなり写取し

なりれりや

口り

松平集下

金出榮造
源氏物語玉葉集

大正十年月

白華老人外記

特別
^12
5147
1-2



